

## [沖繩通信 ]

早いもので今年もゴールデンウィークが過ぎ、上半期もあと1ヶ月を残す余りとなった。

3月11日(金)にマグニチュード9.0の大地震が東北地方を襲った。その後の津波により未曾有の大災害が起こった。現時点で亡くなった方が15,000人、身元不明者がいまだに10,000人以上いるという。亡くなった方の死因の90%は津波による水死だという。

また福島原発の原発所が津波により破壊され、放射能による汚染が心配されている。

亡くなられた方々に哀悼の意を表すとともに、被災地の復興を心より祈る次第である。

ここ何十年の科学の進歩には著しいものがある。新しいものが次から次へと生まれ出され、古いものがどんどんと捨てられている。便利になることはいいことかもしれない。けれどもその影に隠れて何か忘れ去られていってしまう。

自然を破壊して、高い建物を築いていく。自然に対して畏敬の念をもたなければ、日本のみならずこの地球はいつかは滅びていってしまうのではないだろうか。

この度の大災害は人類に対し自然がもたらした警鐘ではないか、そう感じているのは私だけでしょうか。

震災を契機に我が国が1つにまとまってこれを乗り切ろうという機運が起こっている。しかしなかなか思うように進んでいないのは現状である。義援金にしてもまだまだ被災地の方々に渡っていないという。あれだけ義援金、義援金といっているが、何でもっとスムーズに活用できないのであろうか。

義援金をかたった振り込め詐欺も横行している。また被災地から聞こえてくるのはいい事ばかりではない。人間いざとなれば自分の家族、自分がかわいいのである。壊れた工場、店舗に押し入り、食料となる物を盗んでいく。そういう輩がいるのである。

またボランティアで行った若い女性を暴行するというとんでもない事まで起こっているという。こういう時期だから表立って記事としては公表されないが、悪質な事件が起こっているのも事実である。

我々が今できることを考えそして実践していくことが、被災地の復興そして日本のより良い未来への足掛かりになるのではないだろうか。

4月13日

とうとう還暦を迎えてしまった。18歳の時に母方の祖父が亡くなりその時初めて肉親の死に直面したが、人間て死ぬんだという実感した最初の場面であった。

若い時には死というものを考えなかったし、ましてや自分が年老いていくことは想像できなかった。それが若さというものかもしれない。

ヒトが唯一この世で平等であることは、歳をとることである。アンチエイジングという言葉があるが、お金をかければ外見的にある程度若返るかもしれない。しかし人間に限らず細胞の老化は止めることができない。

でも歳をとるってことは、そんなに嫌なことではない。長い時間生きているのであるから、いろいろな経験ができる。その経験がその人にとっての深みになってくるのである。

その人の人生は顔に表れてくるという。木では年輪、ヒトでは皺の深さがその人の人生を物語っているのかもしれない。いい歳のとり方をしていきたい。

生けるものはいつかは死ぬ運命にある。永久の命は存在しない。それだからこそ、生ある時に精一杯生きたい。人は周りの人たちに支えられて生きている。決して一人では生きていくことはできない。ここまで来れたのはその人たちのお陰である。すべての人たちに感謝し、自然に感謝し、そして生かされていることに感謝したい。

還暦とは暦が生まれた時に戻ることである。還暦は本卦返りともいうが、干支(えと)によって年齢を数えるとき、数え年61年目に、生まれ年と同じ干支に返るからである。

還暦の「還」は「かえる」「もどる」という意味で、「暦」は干支を意味する。

干支は本来、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十干と、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥からなる十二支を組み合わせたものをいい、60通りの組み合わせがある。

60年で干支が一回りして、生まれた年の干支に戻ることから、「還暦」というようになった。

今年生まれ年に戻ったということは考えてみれば、また新たな人生が始まるということである。西表島から始まった沖縄生活、今年で5年目を迎えた。若いときみたいに10年後、20年後を目標に設定することはできない。今回ここで一区切りをつけ、来年からは次の目標に向かって進んでいきたい。